

# 令和8年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔文学部人文学科〕

プログラムの名称	Humanities in English Program
1. 取得できる学位	学士（文学）
2. 概要	<p>Humanities in English Program は、英語を現在の世界共通言語の一つとして位置づけ、英語の高度な運用能力（読む・書く・聴く・話す）の習得のみならず、人文学の諸領域にまたがる広範な専門知識を身につけた、国際社会のあらゆる分野で活躍できる人材を養成することを目的とします。</p> <p>具体的には、教養教育課程から専門教育課程まで一貫して、原則として英語を使用した授業科目のみを履修することによって達成します。そのために、本プログラムに属する学生は、英語の高度な運用能力を有し、英語をツールとして、主として文学部が英語で提供する様々な授業科目を履修します。総合科学部国際共創学科（Integrated Global Studies, 以下 IGS と略する）や他学部が提供する英語での授業科目を履修することもできます。</p>
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）	<p>文学部は、「主として人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性の人材を養成すること」を教育の根本理念として掲げています。そして、この理念を具体化するために、「伝統的研究の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化すること、新たな研究領域や学際的領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進すること、現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究を活性化すること、外国語の運用能力を高めるとともに、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につけること、絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養うこと、人類の歴史を学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培うこと」という教育目標を定めています。</p> <p>本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語の高度な運用能力を有し、それをいっそう高めること。</li> <li>教養教育課程において、文系・理系を問わず幅広い教養を身に付けること。</li> <li>専門教育課程において、文学部の他5プログラムにまたがる幅広い基礎学力と方法論を修得すること。</li> <li>特に一つの専門分野における専門知識と先行研究に関する知識を修得すること。</li> <li>専門分野について、独創的な発想に基づき研究を深化させるとともに、現代社会にふさわしい新たな研究領域や学際領域を開拓する素養を身につけること。</li> </ol> <p>この目標を到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。</li> <li>学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人文学に関する深い見識を培い、自ら卒業論文を英語で作成し、提出しなければならない。</li> </ol>

#### 4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、1年次から Humanities in English Program に配属され、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、英語（※）による所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次には主に文学部の英語による専門教育科目を履修する。IGS や他学部が提供する英語による専門講義及び専門演習等を履修することもできる。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、自ら卒業論文のテーマを設定し、独創的な発想力と論理的な表現力を駆使して、学士課程における勉学の集大成として英語で卒業論文を作成する。

※ 文学部における授業科目の使用言語は、E, B, J, Oの4区分とする。

1	英語の教材を使用し、英語で議論する授業科目	E
2	英語以外の外国語あるいは日本語の教材を使用し、英語で議論する授業科目	E
3	英語の教材を使用し、日本語で議論する授業科目	B
4	英語以外の外国語あるいは日本語の教材を使用し、日本語で議論する授業科目	J
5	英語以外の外国語の教材を使用し、英語以外の外国語で議論する授業科目	O

※ 本プログラムにおいて卒業要件となる使用言語は原則E, Bである。

※ ただし、教養ゼミ、初修外国語(ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語)、入門科目、文学部提供教育プログラム共通科目群の人文学概説、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語、サンスクリット語、ヘブライ語は、授業の性質及び教育的観点から、言語区分にかかわらず卒業要件となる授業科目に含める。

#### 5. プログラム・専門分野の開始時期・受入条件

開始時期：1年次から。

受入条件：下表の英語技能検定試験のうちどれか一つの基準値を超えるスコアを取得しておく必要があります。

IELTS	英検	TOEIC, L & R	TOEFL, iBT	Cambridge English
7.0	1級	880	95	C1 Advanced

##### (1) 志望理由書の提出

入学手続き時に Humanities in English Program 志望理由書を提出します。

##### (2) 受入審査の方法は原則として次によります。

- ※ 志望理由書を審査する。
- ※ 受入は英語技能検定試験のスコアの上位者からとする。
- ※ 受入数は若干名とする。

## 6. 取得可能な資格

- ・ 中学校教員一種免許状（国語，社会，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・ 高等学校教員一種免許状（国語，地理歴史，公民，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・ 学芸員となる資格

【注意】ただし，J，0で実施される科目は，卒業要件単位に含まれません。

## 7. 授業科目及び授業内容

- ※ 授業科目は，別紙1の履修表を参照。
- ※ 授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照。

## 8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示します。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4，A=3，B=2，C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示します。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

本プログラムにおける学習成果の評価法についての詳細は，

- ※ 別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照。
- ※ 別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照。
- ※ 別紙4のカリキュラムマップを参照。

## 9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属時期と方法）

### (1) 位置付け

卒業論文は，本プログラムの到達点と位置付け，卒業論文指導4単位，卒業論文8単位を必修とする。本プログラムでの学習成果を集大成し，自己の学習の到達水準を見極め，卒業後の更なる発展を促すことを目的とします。

### (2) 配属時期と作成方法

4年次前期に，各自が設定した研究テーマに基づいて卒業論文指導教員を定め，当該教員の指導を受けて10月末に題目を，1月末に全文が英語で書かれた論文を提出する。

## 10. 責任体制

P D C A責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

本プログラムは，他5プログラムを横断的に，原則英語のみで習得するカリキュラムから構成されます。そのため，本プログラム担当教員は，教務委員長および各プログラムの教務委員の6人とします。そして4年次までに，学生の卒業論文の分野に最も近い教員を学生が選び主指導教員とします。主指導教員は，それまでのプログラム担当教員の他から選ぶこともできます。本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は，本プログラム担当教員会が責任を持って行います。

プログラム外からの評価検討・対処は，全学の教育質保証委員会が行います。

別表（細則第4条第3項関係）

## 文学部教育課程

卒業要件単位数 124単位（教養教育科目40単位，専門教育科目84単位）

## 教養教育科目

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	標準履修(注1)					
							1年次					
							1セメ	2セメ	1T	2T	3T	4T
教養教育	平和基盤科目	平和科目	2		2	選択必修		○				
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○					
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○					
		展開ゼミ	(0)	(注3)	1	自由選択		○	○	○	○	
	共通科目	領域科目		20	(注2) (注5) (注8)	2	選択必修	○	○	○	○	
		外国語科目(注4)	英語	コミュニケーションⅠ	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○	○		
				コミュニケーションⅠB	1		○		○			
			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅡA	1					○	○	
				コミュニケーションⅡB	1						○	○
		上記4科目のうちから2科目以上										
		初修外国語	ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，アラビア語のうちから1言語選択	ベーシック外国語Ⅰ	4	ベーシック外国語Ⅰ	1	必修	○	○	○	○
				ベーシック外国語Ⅱ	1	ベーシック外国語Ⅱ	1		○	○	○	○
				ベーシック外国語Ⅲ	1	ベーシック外国語Ⅲ	1		○	○	○	○
				ベーシック外国語Ⅳ	1	ベーシック外国語Ⅳ	1		○	○	○	○
		英語または初修外国語(注6)		コミュニケーション基礎Ⅰ	2	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	選択必修	○	○		
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1	コミュニケーション基礎Ⅱ	1				○	○
				インテンシブ外国語Ⅰ	1	インテンシブ外国語Ⅰ	1	選択必修	○	○		
インテンシブ外国語Ⅱ				1	インテンシブ外国語Ⅱ	1				○	○	
情報・データサイエンス科目		情報・データ科学入門(注7)(注8)	4	情報・データ科学入門(注7)(注8)	2	必修		○				
		(注7)	2	選択必修			○	○				
健康スポーツ科目		(0)	(注3)(注8)	1又は2	自由選択	○	○	○	○			
社会連携科目		(0)	(注3)(注5)	1又は2	自由選択	○	○	○	○			
基盤科目		(0)	(注3)	1～3	自由選択	○	○	○	○			
計		40										

注1： ○印は標準履修時期を表している。なお、当該ターム（またはセメスター）で単位を修得できなかった場合は、これ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するターム（またはセメスター）が異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。なお、表中ではタームは「T」と表記する。

注2： 自然科学系科目群から2科目4単位以上及び人文社会科学系科目群から2科目4単位以上を選択履修すること。

注3： 展開ゼミ，健康スポーツ科目，社会連携科目または基盤科目を履修した場合は，領域科目を履修したものとみなす。

注4： 英語・初修外国語の履修については，外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は，教養「外国語科目」に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注5： 要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち，使用言語が「英語」の授業科目の単位は，英語の単位とすることができる。

注6： コミュニケーション基礎Ⅰ，Ⅱまたはインテンシブ外国語Ⅰ，Ⅱのどちらか2単位を修得すること。英語以外の外国語をさらに深く学びたい学生は，インテンシブ外国語Ⅰ，Ⅱを履修するのが望ましい。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注7： 情報・データサイエンス科目の履修については，2ターム開講の「情報・データ科学入門」を必ず修得し，「コンピュータ・プログラミング，知能とコンピュータ，データサイエンス基礎，ゼロからはじめるプログラミング，教育のためのデータサイエンス」の中から2単位を修得すること。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注8： 教育職員免許状を取得する場合は，領域科目「日本国憲法」2単位，情報データ・サイエンス科目「情報・データ科学入門」2単位及び健康スポーツ科目2単位を修得すること。詳細は，専門「教育職員免許状の取得について」を参照すること。

専門教育科目

Humanities in English Program

区分	授業科目	開設期	単位	履修区分	備考
専門基礎科目 26単位	入門科目 (Introduction to Humanities)	2	2	必修	
	入門科目	1・2	4	選択必修	Introduction to Humanities以外から選択すること。 超過分の単位は、2単位まで自由選択科目の単位とすることができる。(注1)
	ギリシャ語A, B ラテン語A, B	3・4	2	必修	文学部提供教育プログラム共通科目群のもの。(注1)
	人文学概説	3・4	18	選択必修	
	自由選択科目	1-8			文学部・他学部の専門教育科目及びセンター等開設科目のうち使用言語がE又はBの中から選択すること。 (注2)
専門科目 46単位	専門講義 概説・研究法の科目	3-6	46	選択必修	文学部の専門科目のうち使用言語がE又はBの中から選択すること。(注3)
	専門実習・専門演習 実習, 基礎演習, 発展演習, 特別演習の科目	3-8			
卒業論文科目 12単位	卒業論文指導A, B	7・8	4	必修	
	卒業論文	8	8	必修	
合計			84		

注1： 入門科目，文学部提供教育プログラム共通科目群の人文学概説，ギリシャ語，ラテン語は，授業の性質及び教育的観点から，使用言語にかかわらず当該単位に含める。

注2： 文学部提供教育プログラム共通科目群のアラビア語，サンスクリット語，ヘブライ語は，授業の性質及び教育的観点から，使用言語にかかわらず自由選択科目に含める。総合科学部が提供するMultidisciplinary Subjectsの授業を受講することが望ましい。

注3： 使用言語がE又はBで開講される総合科学部国際共創学科のIGS Core Subjects, IGS Subjectsをはじめとする他学部の専門科目の授業科目についても専門科目に含めることができる。

専門教育科目一覧

Humanities in English Program

区 分			科目コード	授 業 科 目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	免許教科 ○包括的科目		
Humanities in English	Humanities in English	専門基礎科目	BQ0010	Introduction to Humanities	2	2	1	講義			
		専門科目	専門講義	【注】							
			専門実習・ 専門演習	概説・ 研究法	【注】						
				基礎 演習	【注】						
				発展 演習	【注】						
		特別 演習	【注】								
	卒業論文科目		BX6100	卒業論文指導A	2	2	4	演習			
			BX6200	卒業論文指導B	2	2	4	演習			
		BX6500	卒業論文	8	8	4	演習				

注: 文学部の専門科目のうち使用言語がE又はBの中から選択すること。使用言語の詳細は、当該年度に発行する授業時間割で確認すること。  
使用言語がE又はBで開講される総合科学部国際共創学科のIGS Core Subjects, IGS Subjectsをはじめとする他学部の専門科目の授業科目についても専門科目に含めることができる。

## Humanities in English Programにおける学習の成果 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準			
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)	
知識・理解	(1) 人文学に関する幅広い知識を英語で習得したか。	人文学に関する極めて幅広い知識を英語で習得した。	人文学に関する幅広い知識を英語で習得した。	人文学に関する知識を英語で習得した。	
	(2) 人文学に関する幅広い教養を英語で理解したか。	人文学に関する極めて幅広い教養を英語で理解した。	人文学に関する幅広い教養を英語で理解した。	人文学に関する教養を英語で理解した。	
	(3) 人文学に関する広い視野を英語で身につけたか。	人文学に関する極めて広い視野を英語で身につけた。	人文学に関する広い視野を英語で身につけた。	人文学に関する視野を英語で身につけた。	
能力・技能	(1) 人文学に関する幅広い分野の英文テキストを読解できたか。	人文学に関する幅広い分野の英文テキストを極めてよく読解できた。	人文学に関する幅広い分野の英文テキストをよく読解できた。	人文学に関する幅広い分野の英文テキストを読解できた。	
	(2) 人文学に関する幅広い分野の英文情報を収集・分析できたか。	人文学に関する幅広い分野の英文情報を極めてよく収集・分析できた。	人文学に関する幅広い分野の英文情報をよく収集・分析できた。	人文学に関する幅広い分野の英文情報を収集・分析できた。	
	(3) 人文学に関する幅広い分野の研究方法を英語で身につけたか。	人文学に関する幅広い分野の研究方法を英語で極めてよく身につけた。	人文学に関する幅広い分野の研究方法を英語でよく身につけた。	人文学に関する幅広い分野の研究方法を英語で身につけた。	
	(4) 人文学に関する幅広い分野の研究成果を英語で発表できたか。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英語で極めてよく発表できた。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英語でよく発表できた。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英語で発表できた。	
	(5) 人文学に関する幅広い分野の研究成果を英文で記述できたか。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英文で極めてよく記述できた。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英文でよく記述できた。	人文学に関する幅広い分野の研究成果を英文で記述できた。	
総合的な力	(1) 英語で問題設定ができたか。	英語で問題設定が極めてよくできた。	英語で問題設定がよくできた。	英語で問題設定ができた。	
	(2) 英語で情報・データを分析できたか。	英語で情報・データを極めてよく分析できた。	英語で情報・データをよく分析できた。	英語で情報・データを分析できた。	
	(3) 英語で論理的な思考ができたか。	英語で論理的な思考が極めてよくできた。	英語で論理的な思考がよくできた。	英語で論理的な思考ができた。	
	(4) 英語で論理的な表現ができたか。	英語で論理的な極めてよく表現ができた。	英語で論理的な表現がよくできた。	英語で論理的な表現ができた。	
	(5) 英語で独創性を発揮できたか。	英語で独創性を極めてよく発揮できた。	英語で独創性をよく発揮できた。	英語で独創性を発揮できた。	

### 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門領域において英語で研究を行うために必須な、幅広い教養および基礎学力を英語で身につける場として位置付けられる。



Humanities in English Programカリキュラムマップ

学習の成果		1年		2年		3年		4年		
評価項目		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	(1) 人文学に関する幅広い知識を英語で習得したか。	教養ゼミ (◎)								
		展開ゼミ (△)								
		大学教育入門 (◎)								
		平和科目 (○)								
	領域科目 (○)									
	専門科目 (○)									
(2) 人文学に関する幅広い教養を英語で理解したか。		Introduction to Humanities (◎)						専門科目 (○)		
	専門科目 (○)									
(3) 人文学に関する広い視野を英語で身につけたか。	専門科目 (○)									
	専門科目 (○)									
	専門科目 (○)									
能力・技能	(1) 人文学に関する幅広い分野の英文テキストを読解できたか。	コミュニケーション I (○)	コミュニケーション II (○)	専門科目 (○)						
		ベーシック外国語 (◎)								
		コミュニケーション基礎I (○)	コミュニケーション基礎II (○)							
		インテンシブ外国語 (○)								
	(2) 人文学に関する幅広い分野の英文情報を収集・分析できたか。	情報・データ科学入門 (◎)	情報・データサイエンス科目 (○)	専門科目 (○)						
	(3) 人文学に関する幅広い分野の研究方法を英語で身につけたか。	専門科目 (○)								
(4) 人文学に関する幅広い分野の研究結果を英語で発表できたか。	専門科目 (○)									
	専門科目 (○)									
	専門科目 (○)									
総合的な力	(1) 英語で問題設定ができたか。							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)	
									卒業論文 (◎)	
	(2) 英語で情報・データを分析できたか。	情報・データ科学入門 (◎)	情報・データサイエンス科目 (○)	専門科目 (○)				卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)	
									卒業論文 (◎)	
	(3) 英語で論理的な思考ができたか。	専門科目 (○)								
								卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)	
(4) 英語で論理的な表現ができたか。	卒業論文指導A (◎)									
	卒業論文指導B (◎)									
	卒業論文 (◎)									
(5) 英語で独創性を発揮できたか。	卒業論文指導A (◎)									
	卒業論文指導B (◎)									
	卒業論文 (◎)									

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

## Humanities in English Program担当教員リスト

所属プログラム名	教員名	職名	内線	研究室	メールアドレス
教務委員長	後藤 秀昭	教授	6658	A352	hgoto@hiroshima-u.ac.jp
哲学・思想文化学プログラム	衛藤 吉則	教授	6637	A653	yeto@hiroshima-u.ac.jp
歴史学プログラム	前野 弘志	教授	6650	A552	hmaeno@hiroshima-u.ac.jp
地理学・考古学・文化財学プログラム	後藤 秀昭	教授	6658	A352	hgoto@hiroshima-u.ac.jp
日本・中国文学語学プログラム	白井 純	教授	6666	A457	jshira@hiroshima-u.ac.jp
欧米文学語学・言語学プログラム	上野 貴史	教授	6697	A359	tuen@hiroshima-u.ac.jp

※電話082-424-内線番号